



## 旧約講解(1)【創世記:良いことのために計らいをなされる神様】

本日聖書の本文:創世記50章15-21節/暗唱聖句: ローマ人への手紙8章28節

説教者: 鄭南哲 牧師

(Rev. Jung nam-chul)

今日から交互(こうご)に一週間は使徒の働き講解で、一週間は旧約聖書の創世記から出エジプト、レビ記、民数記など旧約の順に従って、一冊ずつ重要な本文を中心に神様の御言葉を解き明かして行きたいと思ひます。

これによって、引き続き顕微鏡(けんびきょう)で見れるように新約の使徒の働きを細かく調べるのと同時に、もう一週は旧約の聖書の全体の森(もり)が見れるようにと一緒(いっしょ)に学んで行きたいと思ひます。旧約聖書の講解のメッセージを通してさらに旧約の聖書の全体の流れを理解し、神様の御言葉を全体的に理解するのに助けになる時間となりますように祈ります。クリスチャンの中には旧約の聖書を一度読んだ事がある人も少ないのみならず、旧約の聖書の聖句は知っているとしても、旧約の聖書がどんなテーマで、どんな内容なのかがまだまだ知らないクリスチャンも実は多くいると思ひます。すくなくとも我々のクリスチャンプレイズチャーチのみなさんはもっと御言葉中心に生きるために、聖書の全体を理解し、特に旧約聖書の御言葉を身近に感じられる良いチャンスとなりますようお祈り申しあげます。

旧約の39冊の聖書はイスラエルの歴史の中で働いておられた唯一の神様がどんな方であるのかと同時に神を信じている民をどのように今も導いていかれるのかを表してください。旧約聖書の世界に足を一步一步踏み入れることにより、今も生きておられる真の神様に会い、そしてわれわれより先に進みながら我々を導いていかれる神様の恵みの御手を体験するようになると信じます。

## &lt;1.創世記&gt;

旧約の始めの聖書である創世記は50章になっていて、大きく二つのパートに分けることが出来ます。

一つ目のパートは1-11章までですが、ここでは創造主の神の天地創造、人間の墮落、ノアの洪水、バベルの塔など、人類全体の歴史が序論(じよろん)的に扱われています。二つ目のパートである12章からはアブラハムを呼んで、彼を通して一つの民族が作られ、その民族によって働かれる救いの歴史がその以後に書かれています。つまり、創世記12章から最後の50章までは神から召命をいただく(しょうめい)信仰のアブラハムから始まって、イサク、ヤコブ、そしてヨセフにいたる4代の部族長の生涯が記録されています。その期間は約300年ほどです。彼らの生涯をとおして神様がどうやって働かれたのかが表されています。これはイスラエルだけの歴史ではありません。今日も変わらず、神様を信じている人々の中でも働かれ、導いてくださる神様でもあります。

今日一緒に考える御言葉は**創世記50章15-21節**までの本文で、創世記の最後のほうになります。ですから、本文は創世記の最後であり、結論だとも言えます。創世記50章21節以後にも実は何節かありますが、それはヨセフの死に対する記録なので、さきほど読んだ箇所が創世記の結論であり、最後だと言えます。50章になっている創世記の最後のメッセージである箇所が**20節**です。

**“あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。”**

これはヨセフの信仰の告白です。人々は自分に害を与えようとしてしまいましたが、神様は人々のその悪い事があってもそれでさえも神様の良い目的のために変えて用いてくださったのだと告白します。ヨセフの兄たちはヨセフに悪を計りましたが、神様はそれをとおしてでもご自分の民を導いてくださったと言っているのです。

## &lt;2. 今日の聖書本文の歴史的背景&gt;

創世記を含め、旧約の聖書は歴史的な記録ですので、その本文を囲んでいる背景を理解することがとっても大切です。

ヨセフに対してもみなさんよくご存知だと思いますが、もう一度まとめてみましょう。ヨセフ(加えて下さったという意味)は波乱万丈の生涯を送った人です。ヤコブには12人の息子がいましたが、その中の11番目の息子がヨセフでした。父であるヤコブがヨセフをほかの兄たちよりもっと愛したので、ヨセフはほかの兄たちに憎まれ、嫌われ者になっていました。

ある日、ヤコブの11人の息子がドタンというところで羊の群れを飼っている時、ヤコブはヨセフにお使いをさせます(創世記37)。兄たちの様子を見てくるようにとヨセフを行かせたのです。ドタンで羊を飼っていた兄たちは遠くから見ているヨセフを見てヨセフを殺そうとしてたくらみます。しかし、一番上の兄だったルベン(37章21-22)はのちに救うつもりで、ヨセフを打って殺すことはよくないので、どこかの深い穴に投げ込むようにと提案し、投げ込まれますが、ルベンがいない間、兄たちの中ユダの提案でエジプトへ下っていく商人たちに銀20枚で売ってしまいます。そして、ヨセフの兄たちは父にはヨセフが猛獣にやられ、かみ裂かれて死んだとうそをつきました。

一方、エジプトに連れられて行ったヨセフはエジプトのパロの廷臣(ていしん)、その侍従長(じじゅうちょう)ポティファルの家の奴隷として生活するようになります。古代社会で奴隷というのは‘生きていく道具’もしくは‘動いているもの’に過ぎない扱いをされていました。奴隷は主人に従う権利しかありませんでした。奴隷は人格的に扱われませんでした。ヨセフには様々な試練がありましたが、何よりも主人であるポティファルの妻からの誘惑はとっても耐え難い試練でした。ポティファルの妻はだれ

もないところでヨセフを誘惑し、一、二度ではなくしきりに誘惑しました。奴隷身分のヨセフでしたが、誘惑を選ぶより、牢屋を選びました。“どうして、そのような大きな悪事(あくじ)をして、私は神に罪を犯すことができますでしょうか。(39:9)”ヨセフはさらに高い神の法律に従うために世の誘惑を拒んだのです。ヨセフは今も生きておられ、すべてを見ておられ、共におられる神様の御前で罪を犯さないために牢屋の道を選びました。

兄たちに嫌われて、売られて、連れられて行った彼は何の罪もないのに、性的な罪の未遂犯(みすいはん)という計略にかかって他国で、いつ釈放されるか分からない日々を牢屋ですごしました。なんと12年間の牢屋での長い歳月を彼はただただ神の正義を信じる信仰によって忍耐しました。しかし、神様はヨセフを永遠に牢屋に閉じ込めて置きません。彼はエジプトの王であるパロ、つまりパラオの夢を解き明かせる機会と知恵を与え、ヨセフは釈放されます。そして、後にはエジプトの王に信頼され、エジプトの総理に任命されます。その時ヨセフの年は30才でした。

総理になったヨセフは大きい倉を作って穀物を備蓄(びちく)し始めます。エジプトの王のパロの夢を解き明かすと、7年間の豊作(ほうさく)が続きます。ヨセフは後来る飢饉(ききん)の時のために食糧を蓄えておきました。7年間の豊作以後、また7年間の飢饉が起こる事を神様が下さった知恵により彼はすでに知っていたのです。不思議に7年間の豊作の時期が過ぎたら、飢饉が始まりました。収穫できない民たちは食糧を手に入れることが出来ず、飢えている時、ヨセフは7年間備蓄しておいた食糧を供給させ国の米で飢えている民たちを食べさせ救いました。

エジプトだけでなく、カナン(カナンの地)にも飢饉が続きましたが、カナン(カナンの地)に住んでいたヤコブの家族も食糧を手に入れることができず、困っていました。飢饉の2年目になって、とうとうヤコブのヨセフ以外の息子たち、つまりヨセフの兄弟たちもエジプトにまで食糧を手に入れるために来ました。その時、エジプトに来たヨセフの兄たちはずっとむかし死んだと思い込んでいた弟ヨセフが生きているだけではなく、エジプトの総理になっている事実を知ります。それで、父ヤコブとすべての兄弟たちの家族は弟ヨセフを通して食糧を手に入れることができ救われました。これをきっかけでエジプトに父ヤコブと家族全員70人がエジプトのゴシェンという所で定着して住むことになりました。この時が飢饉が始まって2年目の時でした(創世記45:6)。

この意味は、もし、ヨセフがエジプトに先立って行かなかったなら、神様を信じていたヤコブの家族全員は後残っている5年間の飢饉に生き残ることは決して出来ない状態でした。しかしヨセフの助けによって父ヤコブを含め兄弟の家族70人はエジプトにあるゴシェンで17年間住み、ヤコブが147歳になった時、聖書の表現どおり‘旅路の苦しみ多い歳月’(創世記47:9-新共同約)147年を終えてエジプトで召されました。

しかし、問題は父ヤコブが死んでからでした。ヤコブの息子たち、つまり、ヨセフの兄弟たちは頭をかかえながら悩みます。むかしの事でもありますが、自分たちは弟であるヨセフを憎んで殺そうとしたし、結局商人たちに弟を売ってしまった事がわすれず、心配になって来ました。父が生きていた時は父のお陰で無事だったかも知れないが、父がいない今の状況になっては、エジプトの総理であるヨセフがこれから自分たちに仕返しするのではないかという恐れが生じたのです。それで、兄たちは相談して、ヨセフの前に行き、赦しを求めた内容が今日の本文の内容なのです。

創世記50章15節以下を見ると、“ヨセフの兄弟たちが、彼らの父が死んだのを見たとき、彼らは、「ヨセフはわれわれを恨んで、われわれが彼に犯したすべての悪の仕返しをするかもしれない。」と言った”それでヨセフを恐れていた兄たちはヨセフに行き、赦しを求めました。兄弟たちは父が亡くなる前にヨセフに行き、こう言いなさいといわれたと言いながらこう言います。“ヨセフにこう言いなさい。あなたの兄弟たちは実に、あなたに悪い事をしたが、どうか、あなたの兄弟たちのそむきと彼らの罪を赦してやりなさい。と。”“だから、今、どうか、あなたの父の神のしもべたちのそむきを赦して下さい。”

18節の以下をみると、“彼の兄弟たちも来て、彼の前にひれ伏して言った。私たちはあなたの奴隷です。”これを聞いていたヨセフの答えが今日のメインの聖書の箇所である20節の言葉です。“あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。”これがまさに創世記の最後であり、創世記の結論です。

### <3.本文の意味>

愛する信仰の家族のみなさん！創世記の最後をかざるこの言葉の意味は何でしょうか？これが今日の本文の大切な強調点です。父がなくなったので、ヨセフが兄弟たちを殺すかもしれないと思った兄たちがヨセフに行き、赦しを求めた時、ヨセフが言った言葉が“あなたがたは私に悪を計りましたが、神様はそれらをもよいことのためにもちいてくださったのよ。”と言いました。創世記において今日のこの本文は何を言っているのでしょうか？

これが今日の本文の大切な点です。もちろん、我々はこの本文を通してヨセフのすばらしい模範を語れるかも知れません。しかし、ただ、ヨセフの偉大な信仰と人格だけにフォーカスしてしまうと、これよりもっと大切な神様の働きを逃してしまいます。つまり、我々が信じる神様、創世記で現われておられる真の主人公であられる神がどんなお方であるのかを聖書はよく表してくださっているということです。

人間は悪を計りますが、神様は人間の良いことだけではなく、人間が行っている悪の中でさえも神様の良いことのために

用いておられるお方であるということです。神様は人々を通して働かれ、ヨセフを救いの働きの道具として用いて来られました。人々はヨセフを殺そうとし、苦しめましたが、神様はそれをとおしても神様の良い目的のためにヨセフを用いて下さいました。つまり、神様はご自分の民を守り、神様の御業を成して来られるのです。

人間の犯罪や悪い行いがあっても、その中においても神様はご自分の民を良い目的と道に導いて下さいます。ヨセフの兄たちによってとか、エジプトの王や他の人々によって主導(しゅどう)されたのではなく、神ご自身がヨセフの人生を導き、摂理された事がわかります。

**45章8節を読んでみましょう。“それで神は私をあなたがたより先にお遣わしになりました。それは、あなたがたのために残りの者をこの地に残し、また、大いなる救いによってあなたがたを生きながらえさせるためだったのです。”5節と7節にも繰り返しながら“神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わして下さったのです。”**ヨセフは今までの苦難と試練の人生でしたが、振り返って見ると、すべては神様がなさって下さったと告白しているわけです。

創世記を通して人間がいくら悪を計っても、神はその悪事の中でも神の御計画通り良い目的を成し遂げるお方である事を覚えておきましょう。

**愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！**

人生においては瞬間瞬間悲しみもあり、苦しみもあります。ある時は他の人たちには分かち合えないほどの悩みの時もありますが、それよりはるかに大きな良い目的のために信じる御自分の民たちを導いていかれる神の摂理がいつもともにあり、その摂理の御手の中に自分がいつもいる事を忘れないで下さい。

創世記の聖書のタイトルが語ってくださっているように、神はすべての万物を造られた創造主だけではなく、創造された世界をご自身が治め、摂理され、加入され、導いて下さるお方であります。

イギリスの理神論者たち(自然神教信奉者)は人類の歴史に神様の介入(かいにゆう)を否定し、人類のすべての歴史はただ自然法則に従って動かされているのみだと主張する部類の人たちもいますが、創世記では明らかに創造主の神様ご自身が歴史の中に介入し、助け、導いて下さったのをアブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフに至る4代にかけて詳しく、生々しく証言して下さいのではないのでしょうか。彼らの波乱万丈の人生の中で創造主の神がどうやって働いて来られたか明確に記されています(創世記12章以下)。

その深い神様の御業を創世記では結論的に表されている内容が今日のヨセフの信仰の告白でした。

ヨセフの兄たちと他の人たちは自分に害を与えましたが、神はそれを通して御自分の民を救って下さる救いの御業を成して下さった神の摂理に感謝を捧げたのです。

今日のメッセージを終わらせたいと思います。愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

波乱万丈の人生を過ごして来たヨセフの人生の中でも創造主の神はヨセフを愛しておられ、介入し、摂理の中で、良い目的とご計画のために彼を守り、導いて下さったように、今もなお我々の人生の中でも我々が気付いても、気付かない時でも主は私たちを愛しておられ、良い目的を持って働いておられ、守り導いて下さっておられます。

裏切られた時、捨てられた時、悔しい時、辛い時など人生の苦しみの時も、逆境の時も、どうしても理解できない時さえも神は許して下さる時があります。しかし、神様は我々の試練や苦しみを通してでもかならず我々に有益になるように、御心のうちに良い目的を成して行かれる事を是非信じて下さい。

**“神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益として下さることを、私たちは知っています。”(ローマ8:28)**

旧約の始めの聖書である創世記！この御言葉には神は天と地、つまり、人も含めすべての万物を創造された事と、そしてその創造された世界に神は臨んでおられ、摂理される神様である事を学ばされました。

ですから、最近失敗したと言って、体が弱くなったと言って、望んだ結果が悪かつと言って、今物事がうまく行かないと言って落胆したり、あきらめたり、挫折しないでください。我々の方からつまずいてさまよい、離れようとした時はあっても、神は私たちから目を離れた事が決してありません。神は我々を放置される方ではありません。もう一度信仰の目で神の導きと摂理を長く見る事ができるように祈ります。どんな状況の中でもヨセフを見守り、神の良い計画と目的を成しておられた神の祝福が今日も愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族みんなの上にいつもともにおられますように切にお祈り申し上げます。アーメン！！！！